

学生時代と図書館 52

モスクワ留学と図書館

武藤 研介

モスクワ留学時代に通った国立レーニン図書館は、楽しい思い出として残っています。レーニン図書館の第一閲覧室が印象的だったからです。ソ連崩壊の直前の驚くほど平穏なモスクワで、レーニン図書館の第一閲覧室に通い、勉強していたのをなつかしく思い出します。

私がモスクワに留学していたのは、1981年の23歳の時から87年までです。モスクワの大学の寮に住み、授業に出る生活を6年近く行いました。今、京都外大でロシア語を教えています。ロシア、ロシア語の知識と経験をこのモスクワ留学で得ました。

81年当時のモスクワは、ソ連の首都で、共産圏諸国の中心都市でした。東西両陣営に分かれていた世界で、共産主義側の東の雄としての地位にソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)がありました。ソ連は、今のロシア連邦とウクライナ、バルト三国など独立国になった近隣の14の国々とがひとつとなっていた巨大な、世界の6分の1の国土を有する国でした。

当時は90年始めのソ連崩壊まであと数年の時期で、私はソ連の末期の権力者の交代をじかに見ました。留学開始の81年はブレジネフ書記長が国を指導して17年目の年です。その次の年、ブレジネフは亡くなり、その後、アンドロポフとチェルネンコの短命政権が続き、85年3月に、ゴルバチョフが書記長になりました。ペレストロイカの始まりでした。その間、アフガニスタンとの戦争が続いています。国の内外で激動し、ソ連崩壊と進んで行く時期でした。

しかし、この時期モスクワではゴルバチョフの改革はまだ現実生活に影響していませんでした。誰もソ連が崩壊するとは思っていません。デモや国内での武力衝突などはまったく始まっていません。

私もソ連が崩壊するとは及びも付きませんでした。ソ連は、政治経済に多くの矛盾を抱えつつ、このまま進んでいくと思われていました。国が「崩壊」という考えが当時は存在しなかったのです。



後から考えると驚くほど平穏なモスクワで生活し、レーニン図書館に通っていたことになります。モスクワの中心にあるレーニン図書館は立地条件が良く便利で、私も大学から地下鉄一本でいけるので頻繁に利用しました。

レーニン図書館では第一閲覧室を使用し、勉強しました。レーニン図書館を使用する場合、図書カードをもらい指定された閲覧室を使う仕組みになっています。第一閲覧室はロシアの大学教授か博士号取得者、アカデミーの会員が特権的に使用出来る最も良い閲覧室です。西側諸国の外国人は特別にこの閲覧室を使用できます。それ以外の人は使用出来ません。当時、まだ、東欧、アフリカ諸国の留学生が沢山いましたし、米、西欧、日本の留学生も結構いました。米、西欧の人々と共に、西側の一員として日本人留学生も第一閲覧室を割り当てられていました。

第一閲覧室では紳士然とした教授たちが借り出した貴重書を机に積み上げ、神妙に一冊一冊に向かいあっています。知的な雰囲気が漂っています。そしてその傍で、ジーンズでスニーカーを履いた派手な若い一目で米、西欧などの西側留学生とわかる学生達が友人同士で小声で明るく笑って、初級ロシア語の教科書を開いたりしています。この奇妙なコントラストがとても際立っており、私も机に座りながら興味深く眺めていました。

その後、レーニン図書館はソ連崩壊後の93年からロシア国立図書館と名を変え、ロシアの中心図書館として、またヨーロッパ最大の図書館として発展しています。現在、もう西側という区分けはないはずですが、外国人が第一閲覧室を使うシステムはつい最近まで続いていたそうです。

むとう けんすけ (助教授・ロシア語)